

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	小学校校舎等改修事業			会計	款	項	目	大	小
				01	10	02	01	05	52
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	学校施設課				
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	大塚 昌浩				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	小学校の児童、教職員及び学校施設利用者	意図	機能低下した施設を改修し、維持、保全に努めることで、教育環境の基盤を充実させる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎、屋内運動場等の建物及び設備について、経年劣化、機能低下が発生している箇所の修繕</li> <li>7月に各学校からの修繕要望書に基づき現地調査を行い、修繕する箇所、内容を決定</li> <li>次年度へ予算要望し、査定に通った事業を実施</li> </ul>			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業と連携し、施設の老朽、劣化状況に基づき優先的に改修を実施</li> <li>学校が気付きにくい設備関連の老朽化が深刻な状況であり、継続的な改修が必要</li> <li>各学校からの改修要望は多く、緊急性、危険性があるもの以外は、対応出来ていない。</li> </ul>			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	改修工事件数	4	5	11	件	→→	
②	修繕件数	2	1	1	件	→→		
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・恒常的業務であることから、成果目標を設定することが困難。 ・修繕内容により、事業費用は大きく変動することから、コストによる評価はなじまない。 ・改修にあたり、改修要望と老朽化状況について、客観的な評価指標が必要。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		11,993,630	41,823,584	45,101,440				
事業費(b)(円)		9,453,580	39,333,984	43,123,840				
うち一般財源		9,453,580	39,333,984	43,123,840				
職員給与と費(c)(円)		2,540,050	2,489,600	1,977,600				
人役・職員(人)		0.37	0.30	0.30				
人役・再任用(人)			0.20					
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	学校の実情に合った改修計画及び計画的な設備の更新	③取組における課題(Check)	改修・更新が必要な施設や設備は多いが、全てに対応することが難しい。
②H30に実施した取組(Do)	各保守点検業務での指摘事項をもとに計画的な改修・設備更新を実施	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	施設や設備の劣化度を見極め、優先順位を付けながら計画的に改修を実施していく。